

中国における「隔世育児」の質的分析：孫と同居する祖父母に着目して

飯田愛紀（奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター）

これまでの研究によれば、孫の世話は高齢者のライフスタイルと食習慣を改善し、介護者の精神的健康に貢献して抑うつ症状を緩和させることが明らかになっている。また、孫の世話と生活満足度は正の関係にあるという研究結果も見られ、これらのポジティブな傾向は孫の世話に祖父母が関与するのが望ましいとされる文化的背景のある社会、孫の世話を生産的な役割とみなす中華圏（中国・台湾）をはじめ韓国やヨーロッパ諸国でも同様の結果が出ている。しかしながら、三世代同居においてはその限りではなく、週に40時間以上という長時間かつ長期的な孫育児は、高齢者の精神的健康にネガティブな影響を及ぼす可能性も指摘されている。事実、中国では長時間にわたる孫の世話は生活満足度が下がり、また、孫育児を行う祖父母の20%ほどは精神的・肉体的な攻撃を孫に向けたこともあるという。親世代の共働き・出稼ぎ率の高い中国では約半数の祖父母が長期的に孫育児に関わり保育サービス等の公的サポート不足を埋める家族福祉的なケア役割を担っており、隔世育児を行う祖父母世代の精神的健康、家族との関係、生活の質にまつわる諸問題の実態把握は喫緊の課題といえる。

そこで本研究では孫に長時間関与している同居祖父母の生活が孫育児を通じてどのように変化しているのかを探索的に調査し、明らかにすることを目指した。2024年3月に中国（湖北省、陝西省）の都市部および農村部に未成年の孫と同居しているもしくはしていた60歳以上の祖父母計39名を対象に半構造化インタビューを行った結果、以下が支配的であった。①「仕方なく」孫育てをしている、②子供（主に息子）が遠方に住んでいる場合、母親（祖母）が遠方に出向き息子夫妻と同居する傾向にある、かつ③将来的には別居して元の家（地元）に帰りたいと望んでいる、という点である。孫と同居し長時間世話をすることでのネガティブな影響は直接的には見られなかったが、地元を離れて孫と同居している場合、これまでの社会的つながりが絶たれ、新しい環境へ適合できないストレスが観察された。これは農村部から都市へ移動した祖父母において顕著であったが、都市部から都市部へ移動した祖父母にも見られた。このことは、同居という家族との直接的・空間的なつながり、換言すれば伝統的家族観に則った生活よりも、生まれ育ったもしくは長年の生活で培った社会的ネットワークを重視している可能性が示唆される。

今後の研究では、育児支援不足により駆り出される祖父母の葛藤にさらに焦点を当て、より具体的な支援策や政策提言を行うことが必要であろう。

キーワード：隔世育児、孫育て、中国祖父母